

特集

教える力を 養うための 継続研修を

教員は、研究も行いますが、本来は文字通り「教える」人です。ですので、すべての教員にとって、教育力 UP は至上の命題と言えます。しかし、看護教員が、教育に携わる前に「正式」に教育を学ぶ機会は、専門学校教員を対象にした教員養成講習会を除けばほとんどありませんし、大学教員に至っては、他学部の教員同様、教育を学ぶ機会がないまま授業に臨まねばなりません。大学では FD が義務づけられたものの、一般大学においてですら、その中身の多くが講演会やシンポジウムで、具体的な教育技法や授業検討への取り組みは少数派のようですから、看護教育においてもそう変わりはないでしょう。

ほとんどの看護教員は、学生を思い、上手に授業を行いたい、効果的に教育したい、と考えているはずです。であれば、個人の研鑽はもちろんですが、組織として教育を学ぶ機会を提供することこそが、いま必要なのではないのでしょうか。

今回は、看護教員の教育力 UP のために必要な継続教育の内容を再考し、学校単位、地域や自治体単位などで継続して教育力 UP の機会を設けることによって、全体の底上げを図る方法を模索します。経験則よりもエビデンスを重視した看護が求められるようになって久しいですが、教育こそ「経験則だけで教えられる」という思い込みから脱却する必要があるはず。継続研修で教える力を養う機会を増やしていただきたいと思います。